

2023年11月16日

尾張旭市議会議長 丸山幸子様

難聴者の補聴器購入に係る負担軽減を求める請願

請願者 補聴器購入費補助制度を求める会

尾張旭市

【紹介議員】

柳原利宏

【請願趣旨】

難聴は日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど生活の質を落とす大きな原因となっています。最近では、うつ病や認知症の危険因子になることも指摘されています。こうしたなか、加齢性難聴に対する補聴器の普及は、健康寿命の延伸、介護や医療費の抑制にも寄与するものです。

高齢化が進むなかで、補聴器を必要とする多くの難聴者・高齢者から補聴器が高価で、低所得者や年金生活者にとっては経済的負担が大きく、利用できないという悩みが出されています。日本の難聴者は推計で1430万人（日本補聴器工業会調べ）に対し、補聴器所有者は約210万人（14.4%）とヨーロッパ諸国と比べ極端に低くなっています。その主な理由は、障害者手帳を交付されない中等・軽度の難聴者は健康保険等の公的補助がなく、補聴器が高額なためです。日常生活に不便を覚えながら利用が困難となっている状況です。また、加齢性難聴と自覚し補聴器購入に結びつけるために、健康診断に聴力検査を入れることが必要です。

ヨーロッパ諸国が補聴器を医療で対応し、手厚い公的補助をしていますが、日本では限定的な対応（障害者手帳保持者で、両耳の平均聴力レベルが70デシベル以上の高度・重度難聴者）であり、中等・軽度の難聴者に対する公的補助が求められます。

補聴器の効果が明確となり、補助制度実施自治体が広がるなかで、政府として制度確立が必要です。

【請願項目】

- 1、難聴者の補聴器購入に係る市独自の補助・支援事業を実施すること
- 2、健康診断に聴力検査を加え、中等・軽度の難聴者の把握に努めること
- 3、政府に補聴器購入費補助制度の創設を求める意見書を提出すること



補聴器購入費補助制度の創設を求める意見書（案）

難聴は日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど生活の質を落とす大きな原因となっている。最近では、うつ病や認知症の危険因子になることも指摘されている。こうしたなか、加齢性難聴に対する補聴器の普及は、健康寿命の延伸、介護や医療費の抑制にも寄与するものである。

高齢化が進むなかで、補聴器を必要とする多くの難聴者・高齢者から補聴器が高価で、低所得者や年金生活者にとっては経済的負担が大きく、利用できないという悩みが出されている。日本の難聴者は推計で1430万人（日本補聴器工業会調べ）に対し、補聴器所有者は約210万人（14.4％）とヨーロッパ諸国と比べ極端に低くなっている。その主な理由は、障害者手帳を交付されない中等・軽度の難聴者は健康保険等の公的補助がなく、補聴器が高額なためである。日常生活に不便を覚えながら利用が困難となっている状況である。

ヨーロッパ諸国が補聴器を医療で対応し、手厚い公的補助をしているが、日本では限定的な対応（障害者手帳保持者で、両耳の平均聴力レベルが70デシベル以上の高度・重度難聴者）であり、中等・軽度の難聴者に対する公的補助が求められる。

よって貴職においては、政府として補聴器購入費の補助制度を確立するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99上の規定により意見書を提出する

令和5年 月 日

尾張旭市議会議長

内閣総理大臣、厚生労働大臣 殿